

ドイツ歌曲への誘い

●MOZART

Per pietà, non ricercate <Concert-Arie>  
Dans un bois solitaire  
Das Lied der Trennung  
An Chloë  
Abendempfindung an Laura

●BEETHOVEN

Bußlied  
Wonne der Wehmut  
Der Kuß  
Andenken  
Adelaide

●MAHLER

Frühlingsmorgen  
Ich atmet' einen linden Duft  
Um Mitternacht  
Um schlimme Kinder artig zu machen  
Scheiden und Meiden  
Ich bin der Welt abhanden gekommen

●R.STRAUSS

Morgen  
Du meines Herzens Krönelein  
Heimliche Aufforderung  
Ich trage meine Minne  
Die Nacht  
Ständchen



下野 昇

テノールリサイタル

Tenor

2012.5.12 土

開場 13:30  
開演 14:00

全席自由: 5,000円(税込)

東京文化会館小ホール

JR上野駅公園口徒歩2分

- 後援・マネジメント 公益財団法人 東京二期会
- チケット販売・お問い合わせ 二期会チケットセンター ☎03(3796)1831
- チケット販売 東京文化会館チケットサービス ☎03(5685)0650



岡原 慎也  
Shinya Okahara

●MOZART  
モーツァルト

Per pietà, non ricercate <Concert-Arie>  
私の苦しみのいわれを求めないでください<演奏会用アリア>

Dans un bois solitaire  
寂しい森で

Das Lied der Trennung  
別れの歌

An Chloë  
クローエへ

Abendempfindung an Laura  
ラウラに寄せる夕べの想い

●BEETHOVEN  
ベートーヴェン

Bußlied  
懺悔の歌

Wonne der Wehmut  
悲哀の喜び

Der Kuß  
口づけ

Andenken  
君への想い

Adelaide  
アデライデ

●MAHLER  
マーラー

Frühlingsmorgen  
春の朝

Ich atmet' einen linden Duft  
私はやわらかな香りを吸い込んだ

Um Mitternacht  
真夜中に

Um schlimme Kinder artig zu machen  
いたずらっ子を大人しくさせるには

Scheiden und Meiden  
別離

Ich bin der Welt abhanden gekommen  
私はこの世に忘れられ

●R.STRAUSS  
R・シュトラウス

Morgen  
あした

Du meines Herzens Krönelein  
あなたこそ心の冠

Heimliche Aufforderung  
ひそやかな誘い

Ich trage meine Minne  
愛を抱いて

Die Nacht  
夜

Ständchen  
セレナーデ

●下野 昇 テノール  
Noboru Shimono

*Tenor*

1961年東京芸術大学声楽科卒業。1963年同専攻科修了。1966年「タンホイザー」のタイトルロールでデビュー。同年ウィーン国立音楽大学に留学。アントン・デルモータ、ハインリッヒ・シュミット各氏に師事。1967年ソフィア国際コンクールでブルガリア作曲家協会賞を受賞。

帰国後「カルメン」「トスカ」「ラ・ボエーム」「アイダ」「ワルキューレ」「フィデリオ」「リゴレット」「ニュールンベルグのマイスタージンガ」等、リリコ・スピントからドラマティックテノール及びヘルデンテノールを要求する主役を歌い、ブリテンの教会三部作オペラ「燃える炉」「放蕩息子」「カーリュ・リヴァー」やヤーナー・チェクの「消えた男の日記」など現代オペラ等にも出演。

小沢征爾氏の日本オペラデビュー「ボリス・ゴドノフ」に出演以来、同氏の指揮で「カルメン」「サロメ」「ウォツェック」「カルミナ・ブラーナ」メシアン「アッシジの聖フランシス」等にも出演。

1969年森正指揮のベートーヴェン第九交響曲のソリストに出演以来、各交響楽団と数多く共演。第九の他マーラーの「大地の歌」ヘンデルの「メサイヤ」ヴェルディの「レクイエム」ショスタコヴィッチの「森の歌」等々各交響楽団と共演、そして1979年にはクルト・マズア指揮のゲバントハウス交響楽団とベートーヴェンの第九に出演。

1982年イスラエル・フェスティバルのオペラ「カーリュ・リバー」の上演で狂女役が「完璧な歌と演技」と評される。66年イノホールにおける第1回リサイタル開催以来、多岐にわたるジャンルでリサイタルを開催。プログラムはシューマンの「詩人の恋」「リーダークライス」ブリテンの「セレナーデ」「ミケランジェロの7つのソネット」そして尾高惇忠委嘱作品等々。1973年には毎日新聞社主催の第78回毎日ソリストに出演。

2006年5月東京文化会館小ホールのデビュー40周年「古希に歌う」リサイタル、そして2009年フィリアホールの「下野昇ベストセレクション」では月刊誌「音楽の友」で高い評価を受ける。

2001年サンクト・ペテルブルグの「日本音楽芸術祭」に招聘され日本歌曲を演奏、また2002年にはアゼルバイジャンのバーゲーで「アゼルバイジャンー日本交流芸術祭2002イン・バーゲー」に招聘され、日本歌曲を演奏。

1988年から1998年まで劇団四季ミュージカル「キャッツ」に客演。

1987年第15回 ジロー・オペラ賞を受賞。

1997年から00年までさが国際音楽祭音楽監督。

現在、二期会会員、山梨大学名誉教授。

●岡原 慎也 ピアノ  
Shinya Okahara

*Piano*

4才よりピアノを始める。

全日本学生音楽コンクール中学生の部全国第一位。

東京芸術大学音楽学部付属高校を経て東京芸術大学に入学、在学中より演奏活動を始める。同大学卒業後、ドイツに留学。

ベルリン芸術大学、ミュンヘン音楽大学マスタークラスにおいて研鑽を積み、FM放送に出演等、ドイツ各地で演奏をする。帰国後、ベートーヴェンのピアノソナタ全曲演奏や各地でのリサイタル、コンチェルト等で高評を博す一方、シューベルトやヴォルフの歌曲の全曲演奏など、ドイツ歌曲や室内楽のパートナーとしても精力的な活動を展開し、1994年にはヘルマン・ブライ、そして95年にはテオ・アダムと共演を果たし、NHK芸術劇場で放映される。1996年にはディートリヒ・ヘンツェルの初来日公演を自らプロデュースし、翌97年のシューベルトイヤー、99年のR.シュトラウスイヤーの全国ツアーを成功させる。その活動は国内のみにとどまらず、チェスキー・クルムロフ音楽祭、リヒルト・シュトラウス音楽祭、そしてグラン・カナリア音楽祭などに招待され、ソリスト、歌曲のパートナー、室内楽奏者として幅広く活動している。

また、2006年春にはチェコにおいて指揮者としてもデビューを果たし、ウィーンフィルの主力メンバーからなるシュトイデ・カルテットとザルツブルグ、ウィーン、大阪でのツアーも成功させる。また、ヘンツェル、同じくバリトンのシュテファン・ゲンツ、チェコのマルティヌー・カルテットなど、国内外で共演を重ねる海外アーティストも多い。

ヘンツェル、ヘルムート・ドイチュらと隔年で開催する「ドイツ歌曲解釈の夏期講習」は5回を数え、多くの若い音楽家たちが巣立っている。

1993年京都音楽賞、96年大阪文化祭賞本賞、そして2001年には音楽クリティッククラブ賞を受賞、平成23年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞。またこれまでに20枚以上のCDがリリースされている。現在、大阪音楽大学大学院ピアノ研究室主任教授、日本ドイツリート協会会長